

新春

2021

New year talk

対談



中央市長

田中久雄

みなさんは、数万人が観戦する東京ドームや両国国技館で、熱い闘いを繰り広げている中央市出身の屈強な男がいることを知っていますか。

プロレスラー鷹木信悟。現在「燃える闘魂」アントニオ猪木が設立した、プロレス界最高峰の団体である新日本プロレスに所属し、どんな相手にも真正面からぶつかり、感情を前面に出す気迫のこもった試合をする選手です。

プロレスは、レスラーの闘う生き様で観客を魅了するスポーツです。しかし、人気レスラーの退団や総合格闘技などの台頭により観客動員数が一時期落ち込んでしまったときがあります。ですが、そんな中でも不屈の意思で闘い続け、少しずつファンを増やしていき、最近では、女性ファンや海外のファンなども増加しています。

今回、鷹木選手と市長田中久雄による新春対談が実現し、故郷中央市の思い出や幼い頃に憧れたプロレスへの熱い思いなどを聞きました。

さあ、時間無制限、一本勝負のゴンが鳴ります！

対談日 令和2年12月2日

対談場所 新日本プロレスオフィス



PROFILE

1982年11月21日生まれ。

身長178cm、体重100kg。田富小学校、田富中学校、市川高校を卒業後、プロレスラーを多く輩出しているアニマル浜口道場に通いながら身体づくりを学ぶため、トレーナー専門学校に通う。2004年に神戸に拠点があるドラゴンゲート(当時闘龍門)でデビューし、現在所属している新日本プロレスに2018年から参戦。

現NEVER無差別級王者(第31代)

ニックネームは「THE DRAGON」

座右の銘は「我道驀進」

プロレスラー 鷹木信悟

プロレスラーを志したきっかけ

市長 今日はよろしくお願いします。まず、現在プロレスラーとして大活躍されている鷹木選手ですが、プロレスラーになろうとしたきっかけは何ですか。

鷹木 兄が地元の田富で少年野球をしていて、僕もその影響で小学校3年生から野球を始めたんです。僕らの代は関東大会で優勝するくらい強かったんですけど、自分はレギュラーになれなくて悔しい思いをしていて、当時から野球が上手かった兄と比べられるのがすごく嫌だったんですね(笑)。

(一同笑)

鷹木 自分自身も「強くなりたい」という思いがあって、野球は好きだけど、格闘技もやりたくて。当時は役場に行つて空手の道場はありませんか、柔道の道場はありませんか。聞いて覚えがあります。

市長 そうだったんですね。

鷹木 それで、合気道や空手、柔道の道場へ通うのと同時に、強くなるという選択肢の中で、テレビでプロレスを見て、これはすごいなと思いました。小学校6年生のときには、甲府駅の北口でプロレスの大会があるって聞いて少年野球のメンバーと一緒に見に行つて、それがとても衝撃的でした。

幼心に憧れたんですね。こん

な強い男になりたいなって。それで、だんだんと強くなりたいという思いが強くなって、中学校2年生ぐらいのときには、プロレスラーになりたいなと思っていました。

市長 その頃、柔道はやっていましたか。

鷹木 そうですね、やってましたね。プロレスラーって、ただ強いだけじゃなくて相手の技から逃げないところや、それでいてお客さんも喜ばせるっていうところに憧れて一目ぼれしちゃったって感じでした。中学生のときの進路希望調査には「新日本プロレス、全日本プロレス、FMW」って書いて提出しましたね。先生からはプロレスし

かないのかって言われましたけど(笑)。そのままの精神で我が道を行くじゃないですけど、今に至ります。

市長 自分で描いた夢を実現してきたということですね。

鷹木 同級生と一緒にプロレスごっこをしていた友達がいだったので、実際にプロレスラーになったのは僕だけです。それだけ魅力に取り憑かれたということですね。

プロレスの魅力

市長 実際に闘う選手にとって、プロレスの魅力や面白さは何ですか。

鷹木 自分が強くなりたいという気持ちがある中でも、ただ強さを主張するのではなく、プロレスを見に来るお客さんを喜ばせたいという気持ちが第一にあります。試合をしている中でもこうすれば盛り上がるかなって想定してやっています。ほかの格闘技や国技の相撲は、あんまりお客さんにアピールをすることは良くないですね。

市長 そうですね。



今回の対談は、アクリル板を設置し、室内の換気、マスクを着用するなどの新型コロナウイルス感染症対策をしたうえで行われました。
この写真は、撮影のため一時的にマスクを外したものです。



鍛え抜かれた肉体を持って、全力で相手にぶつかります



鷹木 でも、プロレスは試合中にリングのコーナーなどに上がってお客さんにアピールしたり、パフォーマンスができます。自分自身こういったパフォーマンスの素晴らしさに惹かれたところがあります。また、今のコロナ禍の中では、お客さんは会場で声を出すことは禁止になっているんですけど、全国を巡業しているときに自分を応援してくれる、その土地土地の人の声が会場内に響くというのは嬉しいですね。「プロレスラー冥利に尽きるな」と思う瞬間です。

市長 そういった自己表現をすることが、プロレスの醍醐味なんですね。

鷹木 そうですね。

新型コロナウイルス感染症の影響

市長 コロナ禍の中で開催予定の興行が中止になったと思いますが、無観客試合なども行っただけですか。

鷹木 新日本プロレスでは試合動画の配信も行っているのですが、まずは観客を入れず、試合動画だけを配信するっていうのを行いました。無観客で試合をするのは、経験が無かったので、最初は困惑した部分はありました。

市長 やはり、そうなんです。

鷹木 お客さんがいるときは、「こんなに攻撃を受けて痛くても盛り上がるくらいいいか」という開き直れた部分がありましたか

ら。お客さんがいないということ、で、こんなに痛かったんだって改めて思いましたね。

市長 なるほど。

鷹木 そのときに、やっぱりお客さん第一でリングに上がっていたんだってことがわかりましたね。なので、カメラの向こうには数万人の人が見えていると思ってスイッチを切り替えて試合をしていました。

市長 特にプロレスって選手同士が接近して試合をすると思うんですけど、何か気を付けていることはありますか。

鷹木 選手一人ひとりが会場入りしたときに検温をしたり、定期的にPCR検査などをしてますね。自分たちが新型コロナウイルスに感染した場合は、対戦相手やその家族、お客さんにも迷惑が掛かるの

で、気を付けています。

市長 興行が中止になっていた期間は、鷹木選手はどのように過ごしていたんですか。

鷹木 緊急事態宣言が出されたときは、2か月ぐらいほぼ外出してなかったですね。

市長 自粛生活だったんですね。

鷹木 そうですね。自粛生活です。

市長 本当に大変な時期だったと思います。今は会場の収容人数にもよると思いますが、だいたいキャパシティの半分ぐらいのお客さんを入れた興行をしているのですか。



読者プレゼントとしてサイン入りTシャツをいただきました
詳細は20ページをご覧ください

鷹木 半分から、半分以下のところ

もありますね。あと、お客さんは拍手はできませんけど、声が出せないの
で、試合をしている僕らもそうです
けどファンの人たちが寂しい思い
をしている期間が続いています。

市長 そうですね。

鷹木 来年には、マスクをしてい
ても、声を出せる状況になってい
ればいいですね。僕らも試合をして
いて、「あのときは盛り上がってい
たな」という感じで、そのときの試
合が記憶に残っていくので寂しい
です。拍手だけだとなかなか熱気
が伝わりづらい部分はあります。

市長 なるほど。

鷹木 でも、無観客に比べればお客
さんの顔が見れるので、全然違
いますね。

故郷中央市について

市長 中央市での思い出はありま
すか。

鷹木 家が近かったので田富のふる
さと公園にはよく遊びに行きまし
た。家にこもってゲームをするよ
り、外に出て遊びたいっていう子
どもでした。身体を動かすのが
大好きでした。あと、小学生の頃に

踊った粘土節の歌詞は、いまだに
頭に残っていますよ。

市長 運動会で輪になって踊ります
よね。

鷹木 そうですね。当時は何も思わな
かったですけど、今になって歌詞の
意味とか考えるようになりました。

市長 以前、母校である田富小学校
で子どもたちに向けて、二度ほど
講演会をしていただきましたよ
ね。そのときの子どもたちの反応
はどうでしたか。

鷹木 最初はかしこまったことを言
おうかなと思ってたんですけど、
子どもたちの興味が無くなった
意味がないので、子どもたち一人
ひとりに声をかけるイメージで話
しをしたら、聞いてくれました。

あと僕、中央市のインスタグラ
ムをフォローして見てるんですけ
ど、市内の保育園とか小中学校で
は運動会とかマラソン大会をマス
クしながらやってましたよね。

市長 そうですね、今年は新型コロナ
ウイルスの影響でイベントのほ
とんどが中止になってしまいました
が、半日だけとか制限を設けな
がら実施しました。

鷹木 そうなんです。

©新日本プロレス



NEVER無差別級の初戴冠時(2020年2月)

プロレスラーとして

市長 プロレスラーとしての今後の
展望は何ですか。例えば、日本だけ
ではなく海外でも試合をしたいな
どはありますか。

鷹木 今の状況だと海外に行くのは
難しいですけど、昨年は初めて、ア
メリカニューヨークのマディソ
ン・スクエア・ガーデンで試合を
することができました。

あと、僕がプロレスラーに憧れ
てた中学生の頃に、東京ドームの
花道を一人で歩くのがかっこいい
なと思っていました。今、シング
ルのベルト(NEVER無差別級ベル
ト)を持っているので、順当にいけ

ばチャンピオンとして、東京ドーム
の花道を歩くことができます。それ
は、一つ夢が叶いそうですね。

市長 そうなんです。

鷹木 地元には誰もが知っている偉
大な先輩として武藤敬司さんがい
るんですけど、武藤さんとは何度
か試合をしますが、あの人は入
場するだけで銭が取れるレスラー
なので、あれほど存在感がある人
はなかなかいないです。

市長 すごくですよ。

鷹木 ジャンボ鶴田さんも県内の出
身なので、偉大な先輩に追い付き
追い越せの気持ちでいます。まだ
まだ全盛期という気持ちで頑張っ
ていきます。

①新日本プロレス初参戦！トップレスラーの内藤哲也選手との野心溢れる笑みです②必殺のパンピングボンバー（ラリアット）が炸裂！③歴戦の男たちの想いが詰まったベルトをお借りしました④中央市産のトマトをお土産としてお渡ししました⑤小学生の頃の鷹木選手。未来の利器です

①



©新日本プロレス

②



③



④



⑤



鷹木選手より提供

市長 コロナが収まったら、また海外で試合をしたいですか。

鷹木 山梨でプロレスに憧れていた人間が世界で活躍できたら、また幅が広がるかなと思ってます。

市民のみなさんに向けて

市長 最後に、市民のみなさんに向けてメッセージを頂ければと思います。特に、子どもたちに向けてお願いします。

鷹木 うーん、そうですね。僕が子どもの頃に漠然と夢や目標にしていた、「プロレスが好きだからプロレスラーになりたい」という気持ちだんだんとリアリティを持つてくる中で、振り返るとこれが大変だったとか、あれが苦労したとかは特にないんですよ。何が一番大事かっていうと、それを「やりたいって気持ち」と「好きだって気持ち」があると、あまりつらいことが気にならなくなってくるんです。

だから、子どもたちに言いたいのは、何か夢中になれること、好きになれることを見つけて、そこに向かって突き進んでほしいですね。僕みたいに、いろいろ試して

みたらいいと思います。野球、合気道、空手とやった中で柔道に落ち着いたけど、その先にはプロレスっていう目標があったので。いろいろなことに挑戦して、自分の本当に好きなことや夢を見つけてほしいと思いますね。

市長 やっぱ、最終的な目標を持ちながら、いろいろなことにチャレンジして、夢を実現させるってことですよね。

鷹木 そうですね。こんなこと言ったら誤解されるかもしれないですけど、プロレスラーになるのは、仕事感覚っていうよりも、誰かを喜ばせたいっていう気持ちが強かったんですよ。子どもの頃から周りの人を喜ばせるのが好きだったので、それが続いている感じです。どんなことでも誰かを喜ばせる、誰かを助けるっていうのは、とても大切なことですよ。自分が好きっていうのと、誰かに喜んでもらえることを探せば、ゴールや目標になると思います。

市長 素晴らしいお話を今日はありがとうございました。

鷹木 こちらこそ、ありがとうございます。